

令和5年度 矢崎小学校 校内研究概要

1 研究主題

主体的・対話的に学ぶ児童の育成
～国語科「読むこと(説明教材)」を通して～

2 主題設定の理由

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」を主題として、研究に取り組んできている。G I G Aスクール研究推進校として指定された2年間は、I C Tを活用しながら研究を進めてきた。昨年度からは、教科を国語科に統一した。主題に迫るために、教師主導の授業にならないよう、児童が学習方法を選択できる授業設計を行うことを副主題とした。この学習方法には、学習課題、学習計画、表現方法が含まれる。

昨年度の成果としては、「導入の工夫をしたり、学習方法を選択させたり、個人で課題設定をさせたりしたこと」で、叙述に沿った文章の読み取りができるようになったことと、「意図的なグループでの話し合いを取り入れたことで、読み取りの視点が広がったこと」がある。しかし、課題として、「相手に伝えることが難しいと感じる児童が多く、話し合いでも自分の考えを発表するだけのグループが見られたこと」と、「個人の読みの課題を優先させたグループ編成をすると、能力差により話し合いが深まらないことがあったこと」がある。また、副主題が「選択できる学習方法の実践を通して」であったために、選択させることが主体的・対話的な児童という捉えになってしまいがちであった。

そこで、今年度は、国語科で統一することは変わらず続け、「説明文の教材」を中心に取り組むことにした。物語教材よりも説明教材の方が、理解しにくく、児童が学習の必要性を感じにくい傾向がある。そのため、「児童が学びとの出会いにワクワクする手だて」を考える必要がある。また、算数・理科・社会などでも示される文章は、全て説明文である。「他教科の学習向上へ生かされる国語科の指導」を目指すことで、「専科の授業実践」も行いやすくなると思われる。

3 研推からの提案

①協議会の持ち方について

・これまで、研究授業の後の協議会をブロックごとに行っていた。今年度は、他学年で交流ができるようにするために、協議会のメンバーをブロックに固定しないで行う。(教員経験年数でグループ化する)

②自己申告の授業について

・全員が研究に関わることができるようにするために、全員が自己申告の授業で「国語」を1本、取り組む。

例：1学期に研究授業するブロックの他のメンバーが、研究授業の結果を生かして、2学期に国語の授業を行う。

例：2・3学期に研究授業するブロックの他のメンバーが、研究授業で取り組む予定の手だてなどの効果を確かめるために、1・2学期に授業を行う。

例：専科などの学習では、それぞれのブロックで育まれた力を生かした「言語活動」を意識した授業展開に取り組む。

③「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」をするために必要な「授業づくり」「1時間の学習過程」「評価」について、研究推進部から提案したことをいつでも確認できるようなデータを作成する。

・主体的に学ぶためには、「自力解決」が必要であること。

・何のために「対話」をするのか、明確にすること。

など、上記の授業を組み立てるためのチェックポイントが確認できる。

学校教育目標

- ◎学び考える力
- 思いやる心
- 明るく元気

【求められる資質・能力】

- ・知識及び技能
- ・思考力、判断力、表現力
- ・学びに向かう力、人間性等

【児童の実態】

- ・分かることやできることが楽しいと感じながら学習を進めることができる。
- ・chromebookを活用して、友達と交流したり表現したりすることができる。
- ・分からないときに、学習の方法を工夫したり、どうしてそうなるのかと理由を考えたりできる児童が少ない。
- ・自分が他人と意見が違うときに、質問をして、自分の考えを積極的に伝えようとする児童が少ない。

【国語科の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

研究主題

主体的・対話的に学ぶ児童の育成
～国語科「読むこと(説明教材)」を通して～

研究仮説

- ・児童が主体的に学ぶことができる学習計画を考えることで、「わかった。」「できた。」という実感につなげることができるだろう。
- ・説明文の読解力を育むことで、他教科での学力向上につながり、どの学習でも主体的に学ぶことができるだろう。

目指す児童像

低学年

他者の考えを聞いて、自分の考えをまとめて伝えようとしている。

中学年

他者の考えを比べ、考えを広げたり、深めたりしてまとめることができる。

高学年

学びへの意欲をもち、他者と自分の考えを比べたり、深めたりして、思考して問い続けることができる。

研究の内容・手だて

- 児童が学習計画を見通して、学びの連続性を感じることができる手だて
【ゴールを見通した単元・授業計画。児童が自力解決できるように見通しをもたせた学習計画】
- 全教育活動で生かすことができるように、読解力の向上を図る
【説明文の読み取り方を理解し、他教科に生かす。】